

所信表明

梅崎一郎 (徳島)

この度の第 15 回日本アドラー心理学会総会において、会長という職務に就くことになりました。ご承認いただいた会員の方々の信頼に応えられるよう、他の役員の方々や会員のみなさんと知恵と勇気を出し合い、対話を重ねながら職務を全うしていきたいと決意しております。

さて、会長職を遂行するにあたり所信表明を行いたいと思います。まず、会長職とはどのようなものであるのかということについて、この度の総会における理事会にて協議された経緯からご説明したいと思います。野田初代会長は、「会長」としてだけではなく「指導者」と「学会事務局長」という 3 つの職務をこなされてきました。この超人的な職務状況を野田初代会長は、適切に区別され公務に従事されてきましたが、この複雑な公務状況は一般会員からの位置では、非常にわかりにくいものであったと思われまます。このような状況を改善し、「会長」と「事務局長」及び「指導者」という公務が、外部からも区別が付きやすいような人事が望ましいのではないかという意見がありました。そこで「会長」公務は学会運営に関する事務的あるいは政治的職務であるので、円滑な事務処理能力が求められること。そして物理的に野田事務局長の側にいない人材が望ましいであろうという根拠により、昨年度の会長事務代行としての職務状況を評価していただいたことで会長職に就くことをご承認いただいたわけでありまます。このような経緯を通り会長職を遂行するにあたり、会長として野田初代会長から引き継いできた 3 つの基本路線

1. アドラー心理学の日常生活での実践重視
2. 非専門家による地域活動の重視
3. アドラー心理学の基礎理論の尊重

を大切にし、かつ実践しながら職務にあたるつもりです。

現在、日本アドラー心理学会の抱えている課題は様々な事柄がありますが、とりわけ重要で解決が困難と思われる課題があります。それはアドラー心理学の基礎理論からはずれ、アドラーの精神に反した言動をしているにもかかわらず、アドラー心理学の名をかたっている人たちが存在していること。さらにはその人たちの影響力により間違ったアドラー心理学を学んでいる人たちが増えている状況があるということです。いわゆる「偽アドラー心理学問題」にまつわる様々な課題が存在し、これらの課題に対して学会としてどのような建設的な対処が可能であるのかを協議し実行しなければなりません。

また、その他にも野田初代会長がアドレリアン通巻 15 号におけるインタビューで指摘されていた、

1. 西高東低問題
2. 指導者層の不足
3. 地方組織のモデルケースがない

4. 世界的なアドラー心理学の危機的状況
5. 研究者の不足

という課題は指摘されてから 4 年も経っておりますが、当時と比べ状況の差はあっても、現在においても重大な解決課題であることには間違いありません。

このように容易には解決が困難である課題が多くありますが、最初に述べましたように、役員の方々や会員みなさんと対話を重ね、よりベターな解決を構成すべく努力したいと考えております。

どうかご協力をよろしくお願いいたします。

更新履歴

2012年9月1日 アドレリアン掲載号より転載